

平成 21 年度再評価対象事業一覧表

(事業採択後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課題)	備考
3	嬉野市 公共下水道事業 (嬉野処理区) 事業主体：嬉野市 事業地：嬉野市	本市の中心部に貫流する塩田川は、温泉旅館街一帯となって温泉情緒を醸成しているが、中心市街地における旅館及び住居からの汚水の流入による水質の悪化、及び周辺河畔における排水管の露出により観光資源であるにもかかわらず景観が損なわれている。 この状況下で汚水処理整備に対する地元住民からの要望は高まっている。このため、観光都市としての自然景観を生かした風情の助長及び塩田川を含めた水路等の水質の保全とイメージアップ、生活環境の改善を目的とし、下水道整備に着手し、鋭意整備を進めている。	全体計画事業費 138.2億円 計画目標年次(全体計画) H.12～H.30 事業内容 ・計画面積(全体計画) 453ha ・計画人口(全体計画) 14,700人	下水道処理人口普及率 26.1%(H.20末) (=5,491/21,000) 下水道処理人口普及率 70%(最終目標値) (=14,700/21,000) 整備済面積 164.4ha(36.3%) (=164.4/453.0) H.20末事業費進捗率 36.5% (=5,049/13,824)	市中心部及び温泉街において区画整理事業が進んでおり、また、九州新幹線の新駅整備も決定し新駅部周辺を含めた都市計画の整理が行なわれている。	事業採択時と比較し、費用対効果の要因の大きな変化は無い。 (嬉野処理区) 費用便益費 (現在価値比較法) B/C(百万円) = 29,587/21,025 = 1.41 ・便益(百万円) 生活環境の改善 16,780 便所の水洗化 12,807 合計 B = 29,587 ・費用(百万円) C = 21,025	(コスト削減) 小口径塩ビマンホール、リブ付硬質塩化ビニル管の採用による保護材の見直し及びマンホール設置間隔の見直し等により、コスト削減を図る。 (代替案の検討) この地域の汚水処理施設の整備手法として公共下水道による方法が最適である。	事業採択後10年間を経過	継続 (理由) 嬉野市は、生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目的として、平成12年度に公共下水道事業に着手している。 全体計画面積453haに対し事業計画面積193haであり、管渠整備状況は、平成20年度末で164ha(85.0%)である。終末処理場においては平成18年3月に一部供用開始している。 事業の内容について地域住民に対する定期説明会の開催(事業説明会、工事説明会、下水道接続説明会)及びパンフレットの配布を行い普及促進に努めており、近年下水道事業に対する住民意識が高まりつつある。このため、本市の公共下水道事業については、「継続」が必要である。	

